

令和3年度 丹波篠山黒豆情報

臨時号 令和3年10月13日 丹波篠山市・JA丹波ささやま・NOSAIひょうご丹波篠山事務所・丹波農業改良普及センター

- ・ 9月中旬以降、気温が平年よりも高く推移し、降水量が極めて少なくなっています。
※9月20日～10月10日までの降水量は0.5mm（平年降水量120.2mm）。
- ・ 高温・乾燥の影響により、根域が狭く、土壌が過乾燥条件となっているほ場を中心に平年よりも早く黄化・落葉が進んでいます。
- ・ ほ場によって差が見られるため、こまめにほ場の状態を観察し、適期に収穫できるよう準備を進めることが重要です。

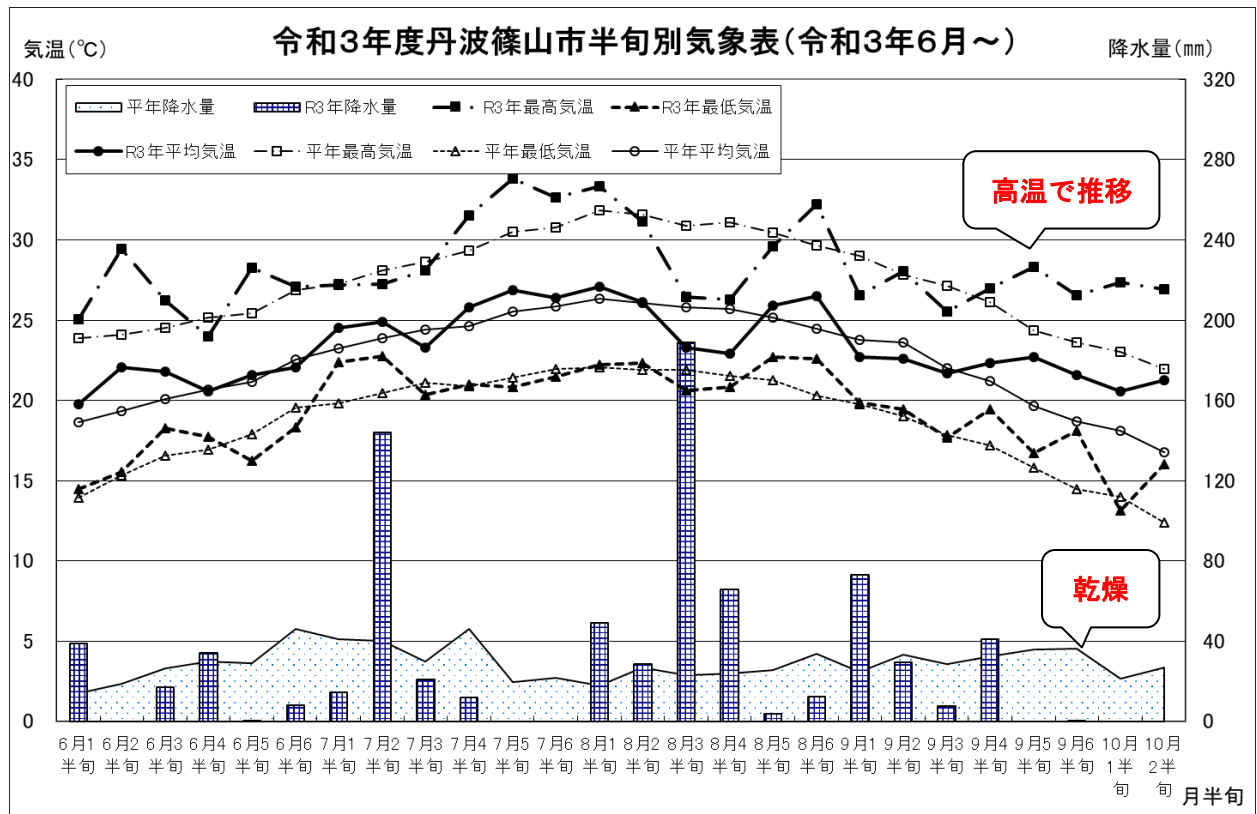


黄化・落葉が進んでいるほ場 (R3. 10. 12 撮影)



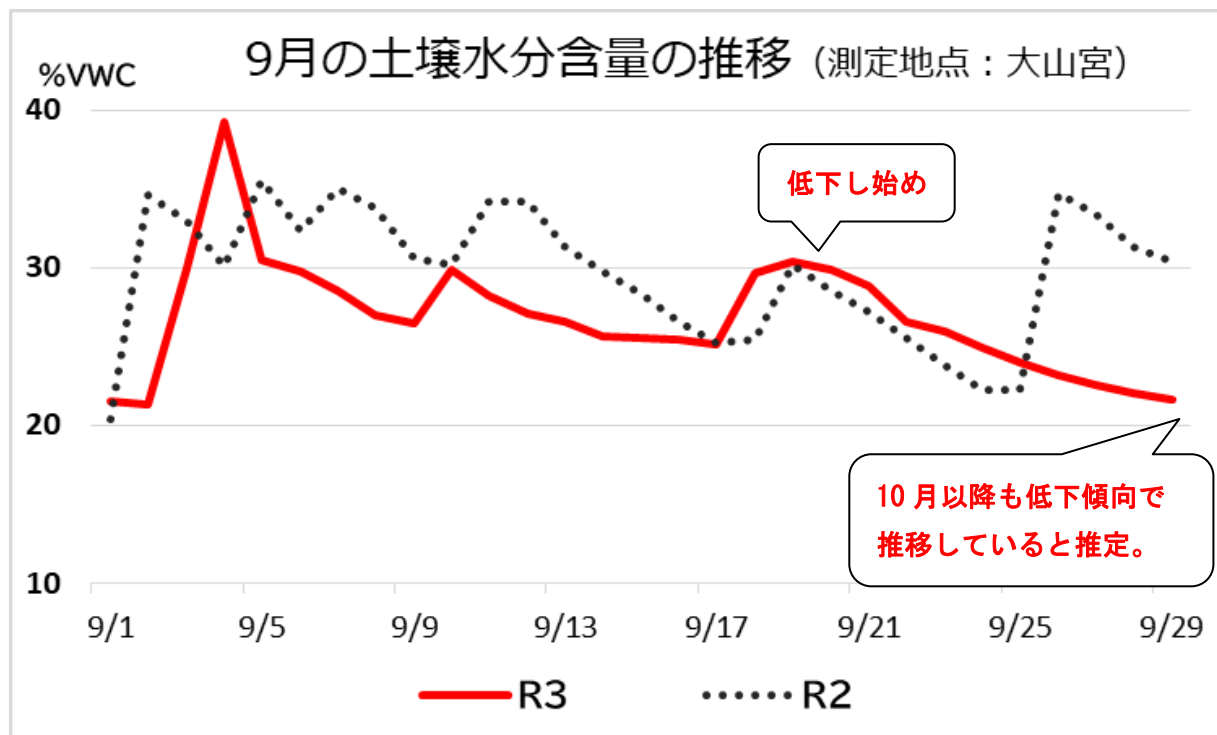
平年並みに生育するほ場 (R3. 10. 12 撮影)

【気象状況】



※丹波篠山市消防本部データ参照

【代表地点の土壤水分の状況】



※Field Server-2300 測定値

【今後の対応】

1 葉取り・刈り取り

①早くから葉の黄化・落葉が見られるため、株によっては登熟が十分に進んでおらず、小粒化が懸念されます。ほ場をよく観察し、葉が十分に黄化してから作業を行うなど作業適期の判断に留意してください。

2 乾燥・脱粒・仕上げ

- ①ほ場で稲架等にかけて予備乾燥を行う場合は、夕方から翌朝までビニールシート等で覆って雨や夜露を避け、翌朝、覆ったビニールシートを外し、乾燥を促します。
- ②機械乾燥の場合、水分含量が高い状態のものを急激に乾燥すると、しわやはく皮が多くなり、品質が低下します。乾燥機への投入は子実の水分が25%程度になってから行い、高温で急激に乾燥することは避けてください。
- ③子実の損傷を少なくするため、脱粒は子実水分20%以下で行いましょう。